湯河原ロータリークラブ
WEEKLY REPORT

2021 年 5 月 21 日(金)　　天気：雨
例会　第 2833 回　　合掌：奉仕の理想

ロータリーは機会の扉を開く

会　長　山本明峰
幹　事　佐藤友彦

事務所：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234　FAX 0465(63)1716
例会場：ニューウェルシティ湯河原　静岡県熱海市泉 107
TEL 0465(63)3721　FAX 0465(63)6401
例会日：毎週金曜日　12:30～13:30

会長挨拶

今日は、嬉しい栄えある例会となりました。平松画伯を名誉会員としてお迎えすることができ、先程の入会式で会員のバッジを襟元に付けさせていただきました。このバッジをすることでロータリアンとしての身分の証明になり、世界中のどのクラブにでもメーキャップが出来ると聞いたことがあります。それが今でも通用する事なのかどうか分からないのですが、ある会員がブラジルのリオのクラブで襟元のバッジを入口で見せただけで招き入れられ、大いに歓迎されたという話でした。クラブ定款の規定には「本クラブのあらゆる会合に出席することができ、その他クラブのあらゆる特典を享受することができる」。また他のクラブにおいても「ロータリアンの来賓としてではなく訪問することはできる。」となっております。何はともあれ名誉会員の名誉とは何より当クラブにとっての名誉です。あらためまして歓迎の挨拶とさせていただきます。

幹事報告

ガバナーより
1. RI バーチャル台北国際大会のプログラムのお知らせが届きましたのでお送りいたします。
2. 日本のロータリー100 周年を祝う会記念式典・祝賀会オンライン視聴のご案内をお送りいたします。
3. 職業奉仕委員会より、今年度地区職業奉仕委員会の職業奉仕月間卓話につきましてアンケートのお願いです。

5 月 28 日(金)までにご回答いただけますと幸いです。

連絡事項　　なし

出席報告	ゲスト 2 名　ビジター 1 名		会員 25 名
	欠席 6 名(免除者 1 名)	前回の修正出席率 75.00%	
	出席率 79.17%	前々回の修正出席率　79.17%	

事前メークアップ　0 名
ゲスト　ガールスカウト神奈川県連盟第 9 団　常盤惠子様
ゲスト　ガールスカウト神奈川県連盟第 9 団　長田由美様
ビジター　名誉会員　平松礼二様

スマイル BOX

5/22～27

会員誕生日　　高杉尚男君（5/19）
会員誕生日　　高知尾朝行君（5/26）
ご夫人誕生日　　渡辺久恭君（雅子様･5/6）

深澤昌光君
コスモスの種まきの助成金有難うございました。湯河原小学校４年生６４名との種まきは天候の関係で出来ませんでしたが、午前中「菜の花会」のメンバー及びボランティアの方と一緒に種まきを終了できました。８月下旬ごろコスモスが満開になるのが楽しみです。

神谷一博君
ガールスカウト常盤団長、長田様、湯河原ロータリークラブへようこそ、今後共よろしくお願い致します。

西山敦君
お陰様で今回コロナワクチン接種が出来る運びとなりました。ありがとうございます。

平松礼二画伯に名誉会員になっていただきましたので全員でスマイル

卓話：平松 礼二名誉会員

平松礼二名誉会員　プロフィール

1941 年東京生まれ。若き頃より頭角を現し、第 1 回中日大賞展大賞（1979 年）、第 1 回 MOA 美術館賞優秀賞（1988 年）、岡田茂吉賞大賞（2000 年）などの受賞を経て、新世紀を代表する日本画家としての地位を確固たるものとする。1994 年、多摩美術大学教授に着任（～2006 年）、2000 年からは文藝春秋の表紙絵を担当（～2010 年）。作品は国内外で高い評価を得ており、全国各地での展覧会のほか、シヴェルニー公立印象派美術館（フランス・パリ）やドイツ国立アジア美術館でも展覧会を開催。その功績から、2021 年 3 月には過去に竹内栖鳳、横山大観が授章されたフランス共和国芸術文化勲章シュバリエ（騎士）を受章。現在、（財）日本美術化連盟理事、（財）美術文化振興会評議員、順天堂大学国際教養学部客員教授、愛知大学名誉博士。氏と湯河原との縁は、2006 年「ゆがわらゆかりの美術館」に平松礼二館が新設されたことに始まる。以来、2017 年には町立湯河原美術館名誉館長に就任、2018 年の湯河原 RC 訪問を経て、2019 年には特別展「湯河原十景（二十景）」開催、2020 年 12 月には鎌倉市より湯河原町へ住民票を移転、2021 年 3 月 5 日より町立湯河原美術館平松礼二館 15 周年記念展「睡蓮交響曲展」を開催中（6 月 28 日まで）。

本日はありがとうございます。私の生まれは東京で、愛知生まれの父を持つ五人兄弟の真ん中に生まれ育った私の心の中には、長らく故郷というものがありませんでした。そんな私の、家内も含めた湯河原とのご縁は今から 15～6 年前、讀賣新聞の関係からお招きいただいたものが最初で、そのときからとても居心地の良さを感じていました。その後湯河原美術館の歴史に残る先生方に続く縁をいただきました。

私のアトリエは軽井沢と鎌倉にあります。フランスとの縁もあり、画材一式をパリに持ち込むことも考えましたが、30 年間通い続けています。軽井沢の気候は日本画に不可欠な膠（にかわ）にとって都合が良く、家内も日欧 1000 種類くらいの花の庭を造っています。そのような中、湯河原との縁をいただき、住所だけは去年のうちに湯河原に移させていただきました。現在、湯河原 RC の高杉会員の協力も得て、湯河原に良い場所を見つけようとしています。

都会に生まれ育ったからなのかもしれませんが、湯河原の海があって山があって川があって、自然に近いところで生活が営まれているという景色は、私たちの胸にすっと入ってくるものでした。そして美術館を通して縁のあった方々には大事に、かつ普通に接していただいて、それが家内も私も湯河原に魅了されていったところだと思います。

安井曾太郎先生、三宅克己先生に続き、ここ湯河原で頑張ろうかと思っています。日仏独の行き来で得た膨大な資料をとりまとめ、アトリエと共に湯河原に収めていきたいと思います。

今、家内と資料を探している最中です。今は与えられた命の時間を湯河原に残していきたい、そして先生方に続いて示していきたい、と思っています。この街で一番思い出に残っているのは、町の小中学校の卒業式にお招きいただいた時のものです。湯河原の子供たちは目がキラキラしていて、都会の子供のようにすれていないのが印象に残りました。その子たちがどうやって社会に出て、行った先で花開き、あるいは帰ってくるのか。湯河原は旅立ちの場所として最適だと、画家の直感で思いました。私も家内も、こんな場所で子供を育てたかったなと思っています。

それにしても、いざ町民になると、湯河原の景色がまた変わって見えるようになりました。それまでは車で来ていましたので目的地の風景だけでしたが、これからは暮らしの風景も見られるのです。我々画人にとってこれほど嬉しいことはありません。
わがままばっかり申し上げますが、お友達になっていただけたらと思います。